

# クロアワビ稚貝の放流試験

小 島 博・日 野 淑 美  
秋 月 友 治・松 岡 正 義

昭和41～43年における磯根資源調査によって、クロアワビ稚貝の放流サイズとしては殻長20mm以上が適当であるとされた。しかし、飼育施設・飼育期間・餌料補給などの諸問題があり、20mm以下の種苗放流技術の開発が急がれている。

本年度は放流稚貝の保護場を造成するための基礎として天然稚貝の住み場調査と稚貝の放流試験を実施した。

## 1. 方 法

### 1) 天然稚貝の住み場調査

調査場所 日和佐・牟岐・浅川

調査時期 昭和46年4月

### 2) 稚貝放流試験

放流場所 日和佐町内ヶ磯 20%サイズのクロアワビ1,000個

放流時期 昭和46年10月

## 2. 結 果

日和佐町内ヶ磯および海南町浅川地先で採集した35個体のクロアワビの殻長組成を図1に示した。殻長組成から、殻長7.0～21.0% (平均殻長13.7%)の貝は当才、30%以上のものは1才と判断された。

当才貝は干潮線付近の岩の小さな凹処や割れからも発見されたが、それらは少なく、多くはタイドプールや干潮線下1m以浅の砂礫の上にある径20cm前後の石の下から見いだされた。

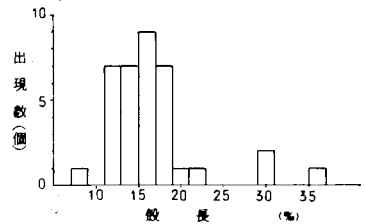


図1 クロアワビの殻長組成

クロアワビ当才貝(天然稚貝)が発見された場所は限られ、図2に示したように、沖合に突きだした岩礁や暗礁があり、波浪の弱くなった区域である。波浪の直接打寄せる場所からは1才以上の貝が見られ、当才貝は発見できなかった。

なお、牟岐地先からは当才貝を発見できなかった。

## 3. 考 察

クロアワビ当才貝は沖側に突きだした岩礁によって波浪が弱められる干潮線下の浅い限られた水

域に生息する。住み場は砂・礫の上にある20cm前後の転石の下に形成されることが多い。

これらのことから、外海に面した水域に人工的な稚貝の住み場を造成するには、造成漁場の沖合に消波施設を設置する必要があると判断した。

本年度は消波施設としてタートルブロックを日和佐町友垣、阿南市伊島大浦湾の各地先に沈設した。来年度には、造成した稚貝保護場へクロアワビ種苗を放流し、追跡調査により稚貝の分散・移動などを調べる。また、海南町浅川加島地先の天然礁を利用して造成した稚貝の住み場—タイヤ礁—へ種苗を放流し、タイヤ礁の効果調査を実施する予定である。

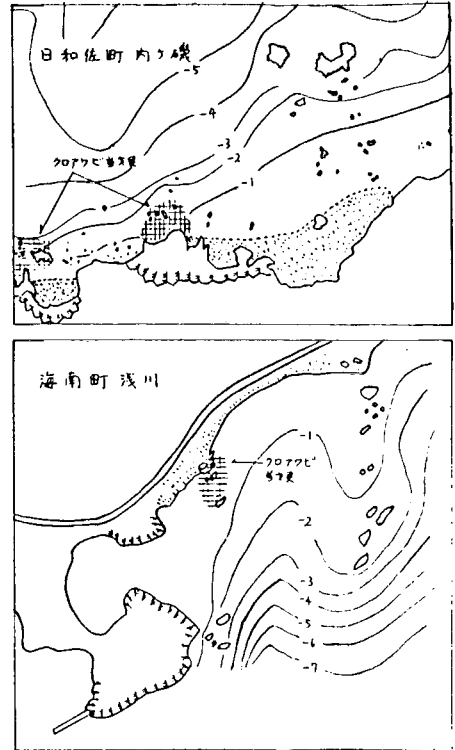


図2 クロアワビ当才貝の発見場所